



# アレルギーのお薬

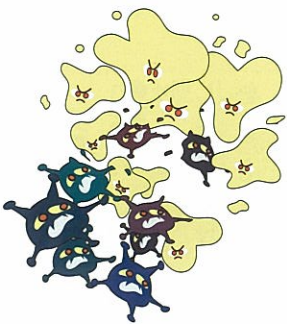
薬局

薬剤師 中田一孝

## はつめい

人間の体は、細菌やウイルスまたは異物(抗原)から体を守ってくれる免疫という機能を持っています。体内には抗原を直接食べる細胞や感染した細胞に毒性物質をふりかけて攻撃する細胞、異物を捕らえる抗体を作る細胞などがあります。これらの細胞は抗原を排除しようとはしますが、その過程で体に有害な過剰反応を起こすことをアレルギーといっています。

一番代表的なアレルギーはI型アレルギーです。I型アレルギーとは抗体が肥満細胞に結合し、その抗体に抗原が結合するとヒスタミンやロイコトリエンなどのアレルギー症状を引き起こす物質が放出されます。これらの物質が気管支や皮膚、鼻そして眼などでアレルギーを起こし、気管支喘息や蕁麻疹、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎などの疾患を引き起こします。これらの疾患で使われるアレルギーのお薬について説明します。



## ロイコトリエン拮抗薬

主にロイコトリエンが引き起こす炎症を抑制するお薬です。ロイコトリエン拮抗薬は、主に気管支喘息の治療に使われている薬剤です。アレルギー性鼻炎の治療では鼻詰まりに効果があるといわれています。アレルギー性鼻炎に使う場合、効果に差はあるものの、眠気やインペ・アード・パフォーマンスが少ないというメリットがあります。

## 目薬(点眼薬)

アレルギー性結膜炎の治療に抗ヒスタミン作用やステロイドの成分が入った点眼薬が使われることがあります。点眼薬は誤った使い方や保存方法で効果が差が出てしまうことがあります。点眼薬は一回に何滴も差すと効果が上がると思っている方がいますが、目に溜められる量は決まっております。多くの点眼薬は1〜2滴で十分です。それ以上は溢れるか鼻の方に流れて行ってしまいます。2本以上の点眼薬を同時に差す場合も同じことが言えますので、点眼する間隔を5分程度空けましょう。鼻の方に流れていく穴が目頭の辺りにありますので、眼を閉じて目頭を押さえしばらく待つと効果が上がると言われています。ステロイドの点眼薬でよく言われている副作用に眼圧の上昇があります。ご自身ではわかりにくいものですので定期的に受診するようにしましょう。

あまり知られていませんが、実は冷蔵庫で保存してはいけない点眼薬もあります。またコンタクトレンズ装着時の使用の可否など詳しくは薬剤師にご相談ください。

## 局所ステロイド薬

副腎皮質ステロイド(以下ステロイド)は強力な抗炎症作用や免疫抑制作用をもち、副作用も多く報告されていますが、アレルギー疾患の治療に効果的な薬剤です。口や鼻から吸入するものや皮膚に塗る軟膏などのステロイドは、治療したい部分に作用が集中するので、飲み薬や注射に比べると副作用は圧倒的に少ないため、積極的に使われています。

吸入のステロイド薬は主に成人の気管支喘息の第一選択として使われています。自己の呼吸で吸い込むドライパウダーと加圧式ガスで吸い込むエアータイプのものがあり、吸い込めなければ効果が無いので使いやすいつタイプを選択することが重要です。口腔内に余分に付着した薬剤が引き起こす副作用を少なくするため、使用後のうがいをお忘れずに行うことが重要です。

## 抗アレルギー薬

作用の違いから細かく分かれています。

### ◇メディエーター遊離抑制薬

肥満細胞からヒスタミンやロイコトリエンというアレルギー物質が遊離するのを抑制する作用を持ちます。

## やすらい

最後に卵や牛乳にアレルギーをもっている方は医薬品中にそれらの成分が入っている場合があります。服用に注意しないといけない薬もあります。アレルギーを治すお薬は多くありますが、お薬でアレルギーを起こしてしまうこともありますので服用に関してご不明な点がございましたら、薬剤師にご相談ください。



すでに起きてしまっているアレルギー反応に効果はなく、主に予防薬として使用されます。また効果は時間をおいてゆっくり現れるため十分な効果を得るためには2週間程度必要と言われています。効果が出ないからとすぐにやめてしまう人もいますが、継続して使用することで効果も上がってくると言われておりますので継続して使うことが重要です。

## ◇抗ヒスタミン薬

主にヒスタミンが引き起こす炎症を抑制するお薬です。お薬によっては眠気を引き起こしてしまうことがよくあります。この副作用を利用して、睡眠を改善するお薬として販売されているくらいです。最近はこのような副作用を改善したのも出ていますが、眠気を引き起こす可能性のあるお薬を服用中は自動車の運転や危険を伴う機械の運転等に從事しないようにしましょう。また「インペアード・パフォーマンス」といつて自覚する眠気がなくても集中力や判断力が低下してしまっていることがありますので注意が必要です。対処法として副作用の少ないお薬に変更するか、寝る前にお薬を服用することもありますので、医師や薬剤師にご相談ください。

## アレルギー治療に使われる代表的なお薬

吸入ステロイド	口から	キュバル、フルタイド、バルミコート、オルベスコ、アドエア、シムビコート
	鼻から	アラミスト、エリザス
ステロイド性点眼薬	点眼薬	フルメトロン、リンデロン、オルガドロン
メディエーター遊離抑制薬	吸入・内服	インタール、リザベン、ケタス
抗ヒスタミン薬	内服	(第一世代) レスタミン、アタラックスP、テルギンG、トラベルミン、アリメジン、ペリアクチン (第二世代) ザジテン、ピフェルチン、アレトン、ニボラジン、アレグラ、クラリチン、アレジオン、ジルテック、タリオン、アレロック
	点眼薬	リザベン、リボスチン、パタノール
ロイコトリエン拮抗薬	内服	オノン、キプレス

体に宇宙が選ってくる。

心体・気のバランスを整え、「人間が本来持っている力」を呼び覚ます。それは、人体を自然あるいは宇宙の一部と捉える、東洋医学の考え方。ナンパオはこの思想から生まれた医薬品です。3種類の選りすぐりの生薬が自分の力を引き出す力となります。さあ、体の中に湧き起こる自分の力を感じてください。

【効能】 中年期以降における、疲労感や倦怠感、集中力低下、自律神経失調、不眠、頭痛、肩こり、腰痛、冷え性、手足のしびれ、めまい、耳鳴り、視力低下、記憶力低下、認知機能低下、うつ病、更年期障害、自律神経失調症、うつ病、認知機能低下、認知機能低下、認知機能低下

【用法】 1日2回、お茶や水で服用してください。

【注意】 1日2回、お茶や水で服用してください。

第2類医薬品

www.mt-pharma.co.jp/nanpaou

商品に関するお問い合わせは「田辺三菱製薬(株)くすり相談センター」  
0120-54-7080(弊社営業日の9:00~17:30)